

第63回 大磯西行祭 献詠俳句・短歌入選作品決定!!

選者の献詠された句・歌及び入選作品は次のとおりです。(敬称略・学年は応募時のもの)

【選者】

◎ 献詠句

本井 英
したしさに汀たどれば西行忌
今村 妙子
浜の石拾うて捨てて円位の忌

山田 真砂年

全天に海の深さや円位の忌

松尾 隆信

竜紋の松に鳴る風西行忌

西山 睦

西行忌渚にかかと沈みけり

◎ 献詠歌

柳 宣宏

てのひらをかろくひらきて確かむる

この指の先照らすひかりを

今井 恵子

体重を杖に乗せつつベンチより

立ち上がらんと姫見ひらく

花山 多佳子

山茶花は垣にのこりて一月の

そら低く真白き雲のいくつか

【応募入選作品】

◎ 献詠俳句

〔一般の部〕 応募総数509句

第一位 東京都世田谷区 原田 淳子

枯木揺れ青空を掻き混ぜりけり

第二位 東京都国分寺市 杉原 祐之

新しき庵主のことに日焼せる

第三位 島根県松江市 寺津 豪佐

陸奥の旅の途中の雛の市

第四位 東京都府中市 竹内 省司

円位忌やひたすらまろささざれ石

〔小学生の部〕 応募総数387句

第一位 茨城県桜川市立谷貝小2年

冬の朝日差しがびんと伸びている

第二位 岐阜県揖斐川町立谷汲小6年

ごめんねの後にかかるにじの橋

第三位 大磯小5年 山本 桜也

夕月にみんながちらりとふりむいた

第四位 大磯小5年 須田 悠太

雪だるま日ざしでしせい悪くなる

〔中学生の部〕 応募総数158句

第一位 国府中3年 山崎 郁実

さくらんぼ風にゆられて手をつなぐ

第二位 大磯中3年 鈴木 里彩

クリスマスいつもの街に色が咲く

第三位 愛知県名古屋市立供米田中3年 渡辺 美愛

文庫本開けば薫る春の文字

第四位 国府中3年 伊藤 有偉

夜遅く取り残される雪だるま

〔高校生の部〕 応募総数212句

第一位 愛知県立幸田高2年 清水 直弥

放課後にあんぱんを食む一葉忌

第二位 岩手県立水沢高2年 鈴木 萌晏

台風来画面の新宿駅しづか

第三位 岩手県立水沢高1年 里館 園子

無口な父笑う丸焦げの鱈

第四位 茨城県立結城第二高3年 金澤 春菜

こたつねこ虫も殺さぬ顔をして

◎ 献詠短歌

※短歌の部二位以下の作品は6月号以降の「今月の短歌」で紹介していきます。

〔一般の部〕 応募総数186首

第一位 埼玉県本庄市 白藤 巳玲

手の甲に何か書きつつ看護師の長き廊下を

下を足早に行く

第二位 北海道札幌市 藤林 正則

第三位 千葉県山武市 立川目 陽子

第四位 平塚市 熊沢 雅晴

〔小・中学生の部〕 応募総数317首

第一位 山口県光市立光井小2年 横道 玄

お日さまはペットボトルをとおひぬけ

ばくに光りをプレゼントする

第二位 国府中3年 星 陽向

第三位 愛知県名古屋市立供米田中3年 渡辺 美愛

第四位 立命館中2年 尾島 蓮瑛

〔高校生の部〕 応募総数165首

第一位 福岡県立明善高1年 田村 瑚奈

寒い日はこたつにこもりでんわむし

「こたつむし」ねと母が微笑む

第二位 文化学園長野高1年 竹田 朱里

第三位 文化学園長野高1年 櫻井 桃花

第四位 文化学園長野高1年 末川 明夏音

今月の短歌

276

手の甲に

何か書きつつ看護師の

長き廊下を

足早に行く

埼玉県本庄市 白藤 巳玲

(評) メモをつけて、それを持ち歩くのは、忘れてはならない大事なことから、手の甲に書きつけたのです。でも、それだけではありません。メモ用紙のあるところに寄る時間もないでしょう。場所は、入院患者のいる病室が並ぶ病棟です。すぐに処置しなくてはならないことが起きたのでしよう。看護師の鋭敏な動きを描く作者には、敬意と感謝が感じられます。読者の前に、看護師の姿をありありと現前させ、心を揺する見事な作品です。

(西行祭選者 柳宣宏)

問産業観光課 ☎内線334